

## ミカンキイロアザミウマの薬剤感受性

## 1. 目的

花き類を周年で栽培する施設においてミカンキイロアザミウマの加害による被害が問題となっている。そこで、ミカンキイロアザミウマに対する防除薬剤の感受性を検定し、防除のための基礎資料とする。

## 2. 調査方法

- 1) 供試虫：1月15日に今治市の花き施設より採集した成虫を供試した。1薬剤につき成虫約10頭を使用し、3反復行った。
- 2) 供試薬剤：表1のとおり

表1 供試薬剤

| IRAC<br>コード | 薬剤名           | 供試<br>倍数 |
|-------------|---------------|----------|
| 3A          | アーデント水和剤      | 1000     |
| 4C          | トランスフォームフロアブル | 1000     |
| 5           | スピノエース顆粒水和剤   | 5000     |
|             | ディアナSC        | 2500     |
| 5+物理        | ダブルシューターSE    | 1000     |
| 6           | アフーム乳剤        | 1000     |
| 13          | コテツフロアブル      | 2000     |
| 14          | リーフガード顆粒水和剤   | 1500     |
| 29          | ウララDF         | 2000     |
| 30          | グレーシア乳剤       | 2000     |
| 34          | ファインセーブフロアブル  | 1000     |

## 3) 試験方法（虫体浸漬法）

マイクロピペット用チップ（1000 µl）に供試虫（約10頭/チップ）を吸い入れ、両面をナイロンゴースで開口部を塞ぎ、チップごと薬剤に10秒間浸漬し、その後、ペーパータオル上で余分な水分を取り除き、風乾させた。風乾後、食餌植物（催芽ソラマメ）を入れた飼育容器に片側のナイロンゴースを取り除いてチップを入れ、25℃の人工気象器内（16L：8D）に静置し、処理2日後に生存・死亡・苦悶別に計測した。

## 3. 結果の概要

- 1) ミカンキイロアザミウマ成虫に対して感受性の高い剤は、ファインセーブフロアブルだけであった。その他の薬剤については、感受性が低く、特に、スピノエース顆粒水和剤、ディアナSCについては効果が認められなかった。
- 2) 以上のことから成虫に対し速効性のある剤は少ないことが明らかになった。有効な薬剤が少ないことから今後は幼虫に対する効果を検討する必要がある。

表2 ミカンキイロアザミウマに対する薬剤の感受性

| 薬剤名           | IRAC<br>コード | 供試<br>倍数 | 補正死亡率(%) |
|---------------|-------------|----------|----------|
| アーデント水和剤      | 3A          | 1000     | 26.5     |
| トランスフォームフロアブル | 4C          | 1000     | 12.9     |
| スピノエース顆粒水和剤   | 5           | 5000     | 0        |
| ディアナSC        |             | 2500     | 0        |
| ダブルシューターSE    | 5+物理        | 1000     | 34.5     |
| アフーム乳剤        | 6           | 1000     | 44.1     |
| コテツフロアブル      | 13          | 2000     | 46.9     |
| リーフガード顆粒水和剤   | 14          | 1500     | 60.0     |
| ウララDF         | 29          | 2000     | 10.3     |
| グレーシア乳剤       | 30          | 2000     | 46.9     |
| ファインセーブフロアブル  | 34          | 1000     | 94.3     |

注) 補正死亡率(%) = (水処理区の生存率 - 処理区の生存率) / 水処理区の生存率 × 100

注) 計算上マイナスの補正死亡率は0とした